



園だより ～きづき～



キ3園 第21号

R8年 6月1日

キッドワールドサード保育園

園長 是永 妃富

6月と言えば雨の多い季節です。天気の良い日が続くと自然と気分も沈みがちになります。そんなときは保育士が、笑顔が出るような遊びを工夫し、考えています。この時季をすぎると、すぐに夏がやってきます。暑い日差しとプール遊びが待っています。今月の雨は、農作物が育つ恵みの雨ととらえ、快適に過ごせるように、室内の温度調整や水分補給をしながら過ごしたいと思います。



6月行事予定

- 4日(木) 歯科検診
- 10日(水) 身体計測
- 18日(木) 健康診断
- 24日(水) 避難訓練

(地震・大津波警報)

お弁当日は
20日(土)です



お知らせ・お願い

- ・気温が上がってきますので、半そでの着替えとタオルをロッカーに入れて頂きたいと思います。
- ・お子さんの様子が気になる時は、朝、保育士に声掛けください。
- ・6/4(木)9時から、歯科健診があります。この日はなるべく欠席しないようにお願いします。
- ・土曜日休みの時は、はいチーズで欠席入力をお願いします。
- ・保護者の方の勤務先等が変更になった時は、担任の方に報告をお願い致します。



朝顔の種を植えます

皆で仲良く遊んでいます

ゆうき君&みおり君です

0歳児さん

離乳食を食べています。
今月から3名になり、少しにぎやかになりそうです。



1歳児さん

公園まで歩こう・・・の目標で
保育士と1対1で歩く練習
をしています。戸外に出るのが
嬉しい様子です



2歳児さん

こども園との交流が始まりました。様子を見に行くと、すっかり馴染んで遊んでいます。大きい鉄棒で遊び、芝生の上を走り笑みが浮かびます。

2歳児の遊び





子どもが望む大人の世界⑧ ～17の子どもの願い～

牧野 桂一先生

子育ての参考をかいてくれています。お読みください



前回までに紹介しきれなかった⑭番目にあたる「明るくてほほ笑みの多い保護者になる」以下の項目について、今回も同じように順次紹介していきたいと思います。

早速ですが、今回は、⑭番目にあたる「明るくてほほ笑みの多い保護者になる」ということから始めていきたいと思います。「子どもに対して明るくてほほ笑みの多い保護者になる」ということは、これまでたびたび強調してきました、子どもを肯定的に受け止めることが基盤になります。子どもたちを心底尊く受け止めることなしには、明るく微笑みの多い対応は、基本的にできないのです。

ここではまず、明るく笑いの絶えない環境が、子育てに与える影響について、考えていくことにします。明るくてほほ笑みの多いという環境は、子どもたちにとって単に「楽しい」という感情に留まらず、もっと深く子どもの脳の発育や心理的なレジリエンス（回復力）に非常に良い作用を及ぼすと言われています。ですから家庭が明るく、笑顔や笑いの多い家庭環境では、子どもの脳の発達や精神的な面の安定、そして、社会的な人間関係を構築していくのに、重要な影響を与えます。

保護者が明るく、家庭内に笑いが多いことは、子どもの心身の発育において非常にポジティブな影響を与えるのです。それを心理学や保育・教育学の観点から見ると、次のような効果があるといわれています。

① 明るくてほほ笑みが多いという環境は、子どもにとっては、安全基地（セーフティネット）になります。子どもにとって保護者の笑顔は、「ここは安全である。安心して生きられる。」という強力なメッセージになります。

また、保護者が明るいことで、子どもは顔色を伺う必要がなくなり、安心してリラックスして過ごすことができます。これが情緒の安定になり、自尊感情と自己肯定感を育てる土台となります。さらに、家庭が明るい、外で嫌なことがあっても「帰れば笑顔になれる」という安心感があるため、レジリエンス（回復力）を育成し、失敗や挫折からも立ち直る力が育ちます。

② 明るく笑いの絶えない環境は、単なる感情表現だけではなく子どもの脳の発達と生活意欲を刺激し、知的な能力の発達や認知機能の発達にも多大な影響を及ぼします。

笑顔の中で育てられた子どもは、そうでない子に比べて記憶をつかさどる「海馬」の成長のスピードが2倍早いというデータもあります。また、子どもたちは、楽しいと感じる時には、脳内ではドーパミンが分泌されています。このドーパミンは生活意欲や様々な能力を育てることに深く関わる物質であり、好奇心を持って物事に意欲的に取り組む原動力になります。

一方、明るく笑いの絶えない環境では、脳内の副交感神経が優位な状態になって、心身共にリラックスしますので、脳の柔軟性が高まり、創造性が向上し、豊かな発想や言葉遊び、創造的な遊びが生まれやすくなります。

③ 明るくてほほ笑みの多いという環境は、社会性とコミュニケーション能力の基礎を培うことができるので、人間関係を広く深くしていくことができます。ですから、家庭での笑いは、対人スキルの最高の練習場になるのです。

また、人の脳には相手の行動を鏡のように写す細胞があり、ミラーニューロンの働きを助けます。親が笑うことで子どもも自然と笑顔になり、ノンバーバル（非言語的）コミュニケーション（表情の読み取り）の質が向上します。そして、このような笑いの多い家庭で育った子どもは、困難な状況をユーモアで切り抜ける「知的な対処法」等を身につけやすく、良好で豊かな人間関係を築く助けとなります。

④ 保護者の笑顔は「あなたをそのまま受け入れている」という強力なサインとなり、子どもの心に強い安心感を植え付けます。笑うことでストレスホルモンであるコルチゾールの分泌が抑えられ、ストレスへの耐性と身体的健康及び免疫力の向上や睡眠の質の改善に寄与するのです。親が楽しそうにしている姿を見ることで、子どもは「感情は自分でコントロールできるもの、ポジティブに変えられるもの」という感情調節のモデルを学びます。このように同じものを見て一緒に笑う経験を重ねることで、他人の感情に共感することができる豊かな情緒や人間力が育ちます。

もちろん、常に無理をして、明るくし続ける必要はありません。大切なことは、「日常の些細なことに面白さを見出す保護者の姿勢」そのものが、子どもにとっての身近な生きた学びになるということです。保護者自身が心にゆとりを持ち、まずは自分自身の楽しみを大切にすることが、結果として子どもへの最高のプレゼントになるのです。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回には、 ⑮ユーモアに富んだ保護者になる ⑯子どもの名前をいっぱい呼んであげる ⑰人として美しい親になるなどについて紹介していきたいと思います。



そらまめくんのベッドの本を読んでもらい、そらまめの皮をむき、調理してもらい食べました。

食感が嫌なのか、苦手なお友達もいました。



向かって左から、ミニトマト・おくら・枝豆を
植えています。大きくなって育つことを願っています

